

坂井建雄（監訳） 市村浩一郎、澤井 直（訳）
プロメテウス解剖学 コア アトラス 第3版
野田泰子（自治医科大学解剖学講座）

『プロメテウス解剖学 コア アトラス』は、21世紀に入り新たに作成された解剖学アトラス「プロメテウス解剖学アトラス」3分冊より、特に学生教育を意識して創られた。本シリーズは、当初より図版の美しさが話題となり、欧州で数々の賞を受賞し、今や独語から英語や日本語などにも翻訳され全世界に広がっている。

まず第1の特徴である図版の完成度については、最新のコンピュータグラフィックスを駆使して作成される図版は、本書でも健在である。部位によるばらつきの少ない統一された仕上がりは、実物に近い質感を備えながら、かつ強調されるべき構造をきちんと伝え、より「リアル」が実現されている。従来の描き手の思いが伝わるデフォルメを最小限としたことで、かえって初学者は自然な形で人体の理解が進められる。

また、各図の解像度が上がりサイズダウンしたことも特徴といえる。小さくても十分な情報を伝えられることから、本「コア アトラス」では、3分冊版での解説を最小化し、新たに図版を改変・再構成したことで、複数の図版が効率的に同じページ内で配置されている。全体のイメージ形成や相互関係の理解に大きく貢献している。コンパクトで持ち歩きも可能であるのに加え、情報量はかえって増加した感

さえある。

構成の特徴としては、3冊に掲載されていた図版が体部ごとに系統的にまとめ直され、版を重ねるごとにさらに洗練された配置には、細部に至るまで解剖学実習での学習への配慮が伺われる。本版においては、著者らの意図通りの、ほぼ理想形に到達したといえる。

さらに、第3版では、臨床医学の学習を視野に入れ、断面図や放射線画像の章がそれぞれの単元に増設された。前版より40ページほど増えている。常に臨床医学の進歩を意識し、医学生目線で、構造情報を最新応用にまでつなげようとする執筆者の気概が感じられる。解剖学自体は、時代を超え変わることのない学問ではあるものの、こうした工夫により、この書で学んだ医学生が将来にわたりこれを座右に置き、愛用することへの期待を込めたアトラスに仕上がっている。

なお、この日本語版では、従来のアトラス同様、日本語・英語のダブル表記となっている。監訳者の坂井建雄氏は、日本解剖学会解剖学用語委員長として長年解剖学用語改訂にも携わっており、信頼度の高い日本語訳となっている点も魅力である。

（A4変型・頁768 2019年 定価：本体9,500円＋税 [ISBN978-4-260-03535-4] 医学書院刊）